経営比較分析表（令和5年度決算）

岡山県総社市　国民宿舎サンロード吉備路

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	観光施設事業	休養宿泊施設	Ａ２Ｂ２	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**建物延面積(㎡)**	**宿泊定員数(人)**	
該当数値なし	該当数値なし	6,095	113	

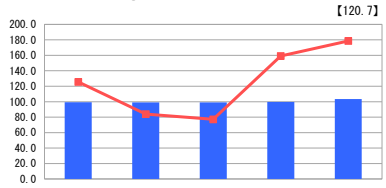
客単価(円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合(%)
11,910	代行制	31.7
バリアフリー法の基準適合性	**トイレ洋式化率(%)**	**Wi-Fi設置**
無	89.8	有

グラフ凡例
- ■　当該施設値（当該値）
- ー　類似施設平均値（平均値）
- 【】　令和5年度全国平均

1. 収益等の状況

①収益的収支比率(%)

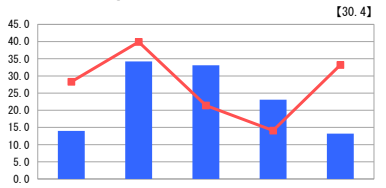
【120.7】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	99.3	99.1	99.1	99.7	103.4
平均値	125.6	83.9	77.2	159.1	178.6

②他会計補助金比率(%)

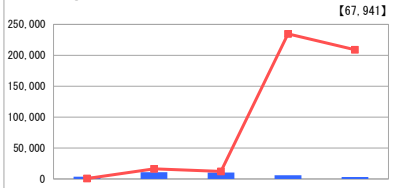
【30.4】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	14.0	34.2	33.1	23.1	13.2
平均値	28.3	39.9	21.4	14.1	33.2

③宿泊者一人当たりの他会計補助金額(円)

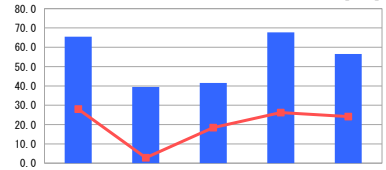
【67,941】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	3,684	11,020	10,390	6,069	3,263
平均値	706	16,253	12,164	234,734	209,070

④定員稼働率(%)

【17.1】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	65.5	39.5	41.5	67.7	56.5
平均値	28.0	2.8	18.4	26.2	24.1

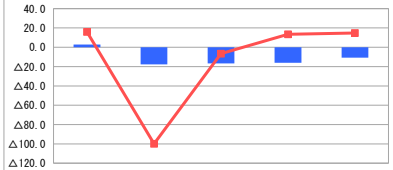
⑤売上高人件費比率(%)

【53.2】

	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	20.8	0.0	0.0	0.0	0.0
平均値	27.8	78.5	52.3	27.7	81.6

⑥売上高ＧＯＰ比率(%)

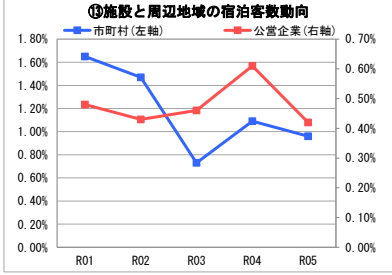
【△26.7】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	2.8	△17.7	△16.7	△16.1	△10.8
平均値	15.9	△99.9	△6.6	13.5	14.8

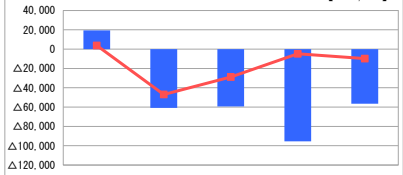
3. 利用の状況

⑬施設と周辺地域の宿泊客数動向



⑦ＥＢＩＴＤＡ(千円)

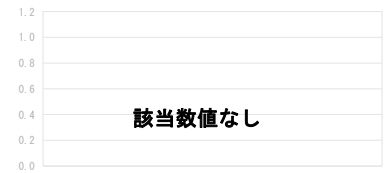
【△15,770】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	19,403	△60,818	△59,356	△95,428	△56,467
平均値	3,780	△46,965	△28,874	△4,869	△9,793

2. 資産等の状況

⑧有形固定資産減価償却率(%)



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値					
平均値					

⑨施設の資産価値(千円)
1,695,292

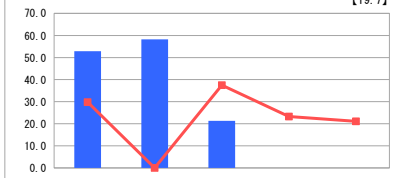
⑩設備投資見込額(千円)
574,000

⑪累積欠損金比率(%)

	R01	R02	R03	R04	R05
当該値					
平均値					

⑫企業債残高対料金収入比率(%)

【19.7】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	52.9	58.2	21.3	0.0	0.0
平均値	29.8	0.0	37.5	23.3	21.1

分析欄

1. 収益等の状況について

②、③→新型コロナウイルス感染症の蔓延により減少していた宿泊者数がR4年度は回復し、R5年度も順調に推移していたが、指定管理者がR6.3月末で交代することとなり、業務の引継ぎ等を行うために営業を縮小せざるを得なくなったため、前年度を上回ることはできなかった。
令和4年度で企業債の償還が終了したことや修繕費が前年比で減少したことから、一般会計からの繰入金は減少した。
光熱費の上昇、物価高等に伴う営業費用が膨らんでいる。

2. 資産等の状況について

R5年度の主な修繕として、排煙装置取替修繕，源泉系統加圧給湯装置更新などを行った。
主な備品としては、29人乗りマイクロバス、ベッドマトレス等寝具などの購入を行った。
R4年度に行った劣化状況調査の結果を踏まえ、計画的に設備等の更新修繕を行っていく。

⑫企業債残高対料金収入比率
→令和4年度で企業債の償還が終了したことにより当該値は0となった。

3. 利用の状況について

当該施設の宿泊者数実績は、
R1年度　27,079人
R2年度　16,294人
R3年度　17,111人
R4年度　27,933人
R5年度　23,350人
→新型コロナウイルス感染症の蔓延により減少していた宿泊者数がR4年度は回復し、R5年度も順調に推移していたが、指定管理者がR6.3月末までで交代することとなり、業務の引継ぎ等を行うために営業を縮小せざるを得なくなったため、前年度を上回ることはできなかった。

全体総括

光熱費の上昇、物価高等に伴う営業費用が膨らみ、営業利益の確保が非常に難しくなっている。
R6.4月施行で、部屋料金等の改定を行った。R6.4月から新たな指定管理者の下、魅力的な宿泊プランやレストランの営業により利益の確保を目指す。
将来的に一般会計からの繰入金への依存度を下げ、特別会計の安定的な運営に取り組んでいく。
今後ますます設備の老朽化への対応が必要となってくることから、計画的な設備の更新修繕等を行うとともに、限られた予算の中で施設の魅力を上げるような投資も行っていきたい。